

リンナイ工場見学研修会



6月21日 ~ 22日 一泊二日

出発の日。きのうの梅雨空とは打って変わり、快晴。参加者たちの日ごろの心掛の良さ、そのものの好天気、リンナイ本社の名古屋までは新幹線で1時間50分。バスに乗り換えて30分で到着。まずは本社内のショールームで、2班に分かれて説明を受ける。

大正9年大阪ガス社員の内藤・林が独立し、ガス燃焼器具の製造・販売会社の「林内（りんない）商会」を設立したのがそのスタートとの事。ガスコンロ、レンジ、オーブン、ストーブ、湯沸機を全国のガス会社に納入し、又海外へも輸出した。

昭和33年に、西独シュバンク社との「セラミックバーナー」の技術提携が、その後の会社発展に大きく寄与している。ショールームケース内のセラミックスの小さなバーナーの穴が、見事に規則正しく並んでいるのを目にしてまるで、幾何学模様の工芸品を見ているようだった。

平成6年に完成した本社ビルは、近代的なオフィスビルである。当日は山崎社長が、東南アジアの出張から帰ってきて在社中なので、ぜひお話をしたいと、眺めの良い会議室で20分程のあいさつを受けた。第一線の営業マンから叩き上げてきたとの事、サービス精神旺盛で気さくな人柄の方で、廊下に出ても窓の外の景色や、壁に架けてある絵画の説明をしてくれたりした。

次の瀬戸工場見学に向かう我々を、玄関先まで一緒。バスが出てから振り返ると、先ほどの玄関先に、じっと姿勢を変えずに、ひとり見送ってくれたのが印象的だった。

なかなか出来ない事だなと思った。バス内で社員の人は、普段口喧しく言っているのに、今日はその見本のつもりだったので。とニコニコと説明してくれた。

瀬戸工場は給湯器を作っている。思った以上にたくさんの工程があり、多くの人たちが働いていた。全部品を一貫生産し、組み立てをしている。製品の検査は抜き取りでなく全品を行っていて、検査員は、社内資格制度を取っていて、担当者の責任により検品をしている。

レンジ・コンロ・コンベック類を製造している大口工場へ次に行った。ここでは燃焼バーナーの、大きさ・角度・間隔等を、より効率の良い形にする研究も行っている。燃焼効率を45%から55%にアップすることが出来た。

両工場とも、説明担当者がとても熱心で好感が持てた。従業員のマナーもよく、工場内の整理・整頓も行き届いていた。

気になった事は、プレス加工場の騒音が凄かった事、検査部門でのガス漏れの臭いがしてた事などであった。

部品数を減らすこと、組み立て工程を簡略化すること、作業員をもっと効率よくすること、などが今後の課題点なのかなと感じた。

工場の外に出たのが4時半。名鉄犬山ホテルに5時到着。盛りたくさんの見学で少々疲れ気味。



下橋 祐次（八千代支部）